

文部科学大臣 萩生田光一 様

文化庁長官 宮田亮平 様

私、鄭梨愛(チョン リエ)は、文化庁の「文化資源活用推進事業」の補助金審査の結果、「あいちトリエンナーレ 2019」への補助金不交付を決定したことについて、強く抗議し、不交付決定を取り消すことを要望します。

文化庁は不交付決定の理由として、審査段階で具体的な計画がなかったこと、電凸や脅迫が続いた時点で報告がなかったこと、展覧会中止によって事業の継続が見込まれにくくなったことをあげていますが、もう既に様々な方が指摘し抗議声明を發表しているとおり、この理由からの補助金不交付という文化庁がとった決定は、あまりに不当です。

すでに審査を経て採択された事業に対してのこの決定は、「国」の恣意的な判断にしか思えません。

なぜ、展示中止に迫られることになったテロ予告や脅迫は見過ごし、脅威にさらされた「あいちトリエンナーレ 2019」に補助金不交付という態度をとるのですか。

なぜ、テロ予告や脅迫には屈せずむしろ支援すべき状況のなか、展示再開をより困難にして妨害する脅迫行為に加担する決定を下すのですか。

そもそも発端の、標的になった「表現の不自由展・その後」の、特に「問題視」された「平和の少女像」に対する批判も「過去に慰安婦などいなかった」という歴史修正主義からくる差別扇動であったと見るべきです。公人が作品の取り下げに迫って介入したり、「公金を投じるべきではない」と発言したり、当初の「表現の自由」を抑圧する状況から、でも、展示再開の展望が見え始めたいま、文化庁の補助金不交付の決定というのは、もう検閲以外の何物でもないです。

私は日本で生まれ育った在日朝鮮人 4 世ですが、この「あいちトリエンナーレ 2019」をめぐる一連の流れは、まるで、「日本の植民地支配によって産み落とされた在日朝鮮人」すらもないものとするような、自分がここに生きていることすら許されないような、とても見るに堪えない出来事でした。

また、朝鮮高校と朝鮮幼稚園の無償化問題も時事的に重なり、この「国」はいつまで自分たちをいじめれば気が済むのだと、行き場のない思いを常に抱えています。

幸い私は、信頼できる素晴らしい方々に囲まれこうして声をあげられています、「声なき声」を発している人々も多くいます。

今回の不交付決定は「その多くの人たちをも殺すことになる」、そういった事とも地続きにある決定だと思っています。

さいごに、私が在日朝鮮人 4 世で美術作品を制作し發表している立場でもあることから、文化芸術の振興に多大な悪影響を及ぼし、素晴らしい作品たちが生まれる可能性を潰すことにもなる、この不交付決定を、再度、強く抗議します。

この国際芸術祭へのあなたたちの態度が、いま問われています。国内だけではなく世界の多くの人々が注目しています。

人として、正しく誠実な態度を求めます。

鄭梨愛

2019 年 10 月 7 日